

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の公表について

本年度実施された全国学力・学習状況調査における厚真町の子どもたちの概要をお知らせします。

教育委員会では、本年度の調査結果をもとに、今後の教育施策の充実と各学校の教育活動の改善・充実に向けて取組を進めてまいりますので、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること。また、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育に関する施策と継続的な検証改善サイクルを確立して学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

2 調査期日 平成28年4月19日(火)

3 調査の内容

(1) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(2) 児童生徒に関する調査

① 教科に関する調査 国語、算数・数学

国語、算数・数学はそれぞれ、「主として『知識』に関する問題(A)」と「主として『活用』に関する問題(B)」を出題

② 質問紙調査

生活習慣や学習方法、学習環境、生活の諸問題、教科に対する意欲等に関する調査

(3) 学校に対する質問紙調査

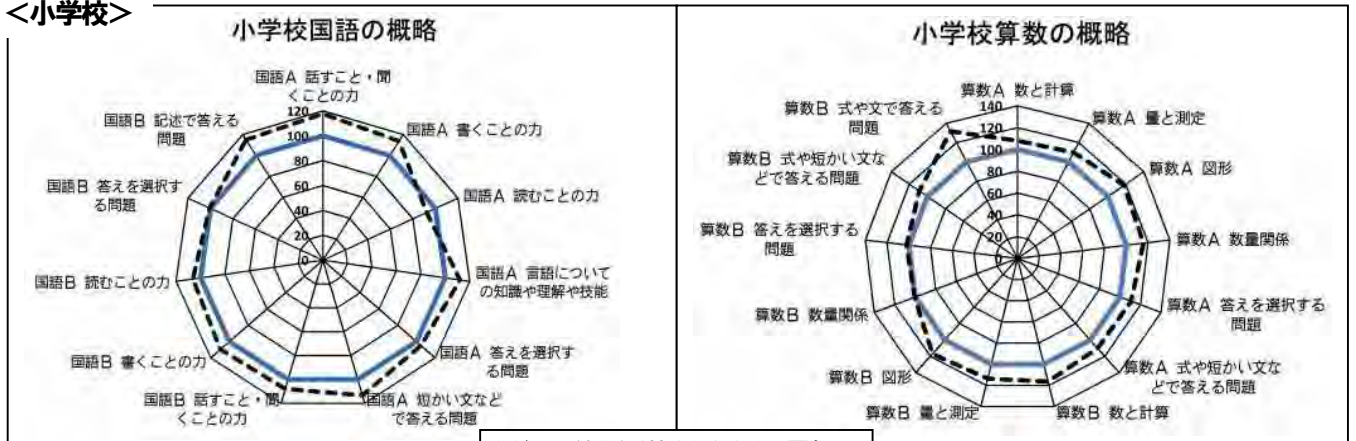
学校における指導方法に関する取組や学校における教育条件の整備条件等に関する調査

4 参加状況 参加学校及び児童生徒数(小学校:2校 29人、中学校:2校 22人)

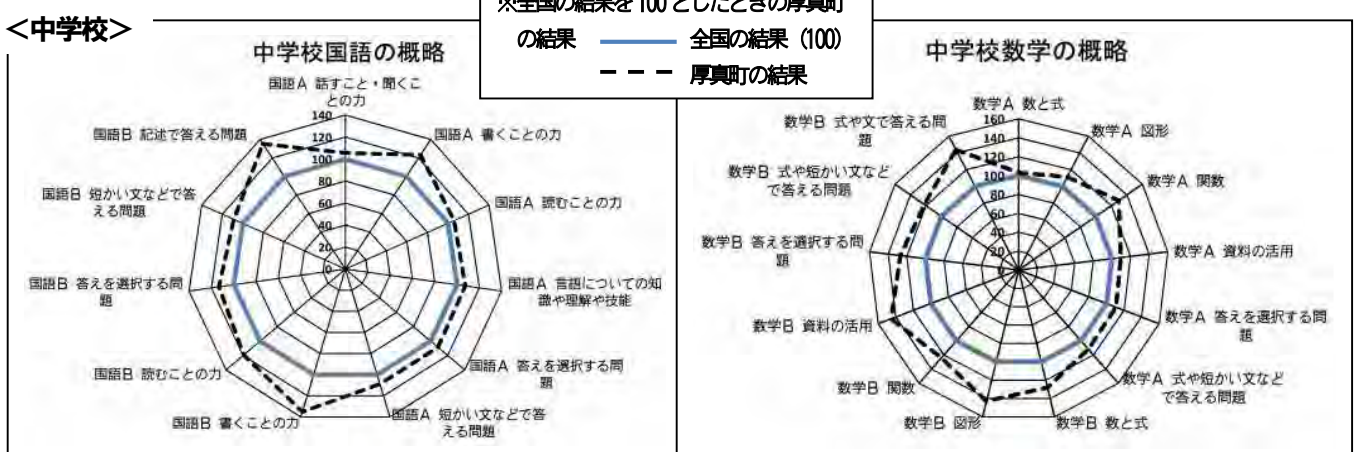
5 調査結果の概要

教育委員会では、平成24年度から全国の平均正答率をこえることを目標に学校と連携し、保護者のご理解・ご協力を得て学力向上に取り組んできました。その結果、今年度は、小学校、中学校ともに、国語、算数・数学のA及びB問題の平均正答率で、全国の平均正答率を5%以上上回る結果を得ることができました。

<小学校>



<中学校>



7 学力状況の概略

(1) 国語

<p>＜小学校＞ 良かった点：漢字やローマ字の読み書き、文章から必要な事柄を読み取り、要旨をまとめる等の基礎基本の定着が見られた 課題：複数の叙述を基に、自分の考えをまとめて書くこと等</p>	<p>＜中学校＞ 良かった点：文章から必要な情報を得て、自分の考えを具体的に書いたりすること等の基礎基本の定着が見られた 課題：文脈に即して漢字を正しく書いたり、意味を理解して適切に使ったりすること等</p>
--	--

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- 自分の考えをまとめて書く力や複数の資料から必要な情報を選び出し、活用する力をつけるため、日頃から本や新聞等を読んだり、一つの事柄を調べるときにも複数の資料（本、インターネット等）からまとめさせたりすることが大切です。また、家庭学習での漢字の学習では、書き順等の漢字の書き方だけでなく、漢字辞典などを活用し、漢字の由来や意味、使い方にも関心をもたせることが大切です。

(2) 算数・数学

<p>＜小学校＞ 良かった点：四則計算、式の意味理解と数量関係を簡単な式で表す、図形を構成する要素をとらえる等の基礎基本の定着が見られた 課題：算数の問題場面で見いだしたことを、様々な構成要素に着目して、論理的に考察すること等</p>	<p>＜中学校＞ 良かった点：四則計算、関数の意味、方程式の解き方等の基礎基本の定着が見られた 課題：前提となる条件が不足している場面で、加えるべき条件を判断し、その理由を説明すること等</p>
---	---

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- 算数、数学の思考を鍛えるために、自分の考えやその理由を友だちに分かりやすく説明させたり、1通りの考えだけでなく、もっとよい方法がないか等を考えさせたりすることが大切です。
- 算数や数学の活用力を伸ばすために、普段の生活の中でも意識的に授業で学習したことを使い、考えさせること（丸いケーキを等しく分ける方法、旅行の時、地図から距離やかかる時間を考えさせること等）が大切です。

8 質問紙の結果から見た子どもの特徴（全国と比べ）

9 質問紙の結果から見た正答率の高い子どもの姿

<p>＜良かった点＞</p> <ul style="list-style-type: none">難しいことでも失敗を恐れず挑戦しようとしている子が多い宿題や復習など家庭学習に積極的に取り組んでいる子が多い学校の規則を守っている子が多い先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じる子が多いテレビゲームをしない（1時間未満）子が50%をこえた <p>＜改善したい点＞</p> <ul style="list-style-type: none">「自分には、良いところがあると思える」等の自己肯定感を育むこと ※この数年間で改善してきているがそれを定着させたい	<ul style="list-style-type: none">家の人と学校での出来事などを話す子家の手伝いをする子地域の行事に参加する子長時間テレビゲームをしない子や、長時間テレビやビデオ・DVDを視聴しない子宿題や予習・復習に取り組む子、特に復習を頑張る子 <p>小学校：規則正しい生活をする子（早寝・朝食） 友達の話をよく聞ける子</p> <p>中学校：人の役に立ちたいと思う子 計画的に勉強する子（2～3時間）</p>
--	---

10 今後の取組

人口減少や技術革新が進む中で子どもたちの将来が大きく変わろうとする今日、学校教育の果たす役割はますます重要となっています。このような学校教育への期待を踏まえ、学校では、日々子どもたちの学習や生活の様子や全国学力・学習状況調査、標準学力検査の結果等をもとに「学力向上プラン」を策定し、授業や指導の改善に日々取り組んでいます。さらに、中学校区毎に小中学校が相互に授業参観を行ったり、学習の手引きを交流したりする等、地域毎の指導の連携を進めています。

教育委員会は、子どもたちの学力向上に寄与するため、今後も次の取組を一層推進していきます。

- ①学力の問題は地域全体の問題ととらえ、各学校の代表者をもって学力向上推進委員会を設け、各学校の取組と成果や課題の交流を通し、町内4校の連携した学力づくり等の充実に努めます。
- ②「教育は人なり」と言われるように、学力の向上には教師の授業力の向上が必須と考え、今年度から町教育研究会と連携した「厚真町授業づくり研修会」を開催し、先生方が共同で授業改善に取り組む独自の研修の実施、授業づくりの先進地への視察研修等を通して研修の機会の充実に努めます。
- ③複数教員（加配教員や教育サポーター）による学習指導の充実への支援（小学校）、長期休業（夏休み・冬休み）を利用した補充指導への支援、放課後子ども教室の取組（野外活動や遊び等の豊かな体験活動）、生活リズム定着の取組等の充実に努めます。

6 道内市町村との比較分布から見る現状について



は、厚真町が属するグループ

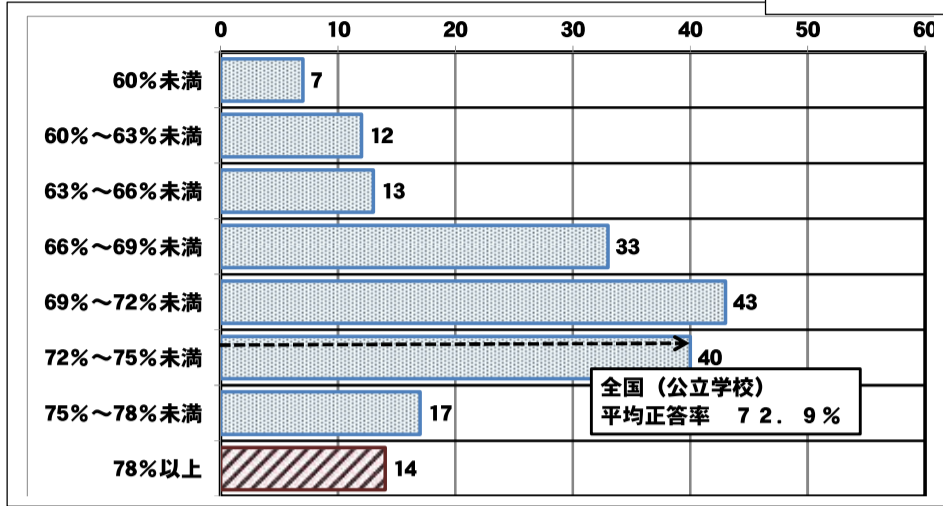
全国比は、全国を100とした時の厚真町の割合

※ 厚真町の全国比は、小数点以下を四捨五入しています

小学校

国語 A

市町村数

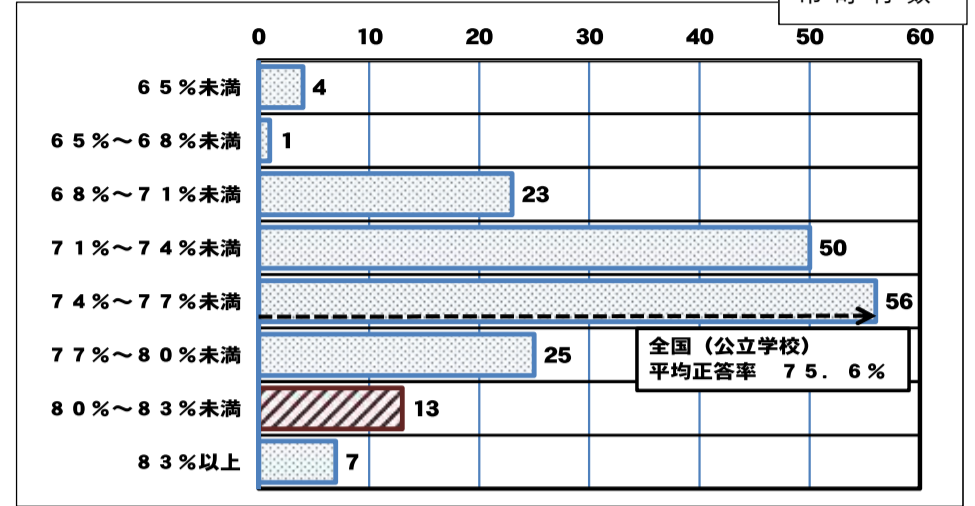


平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	80.0	71.0	72.9	110

中学校

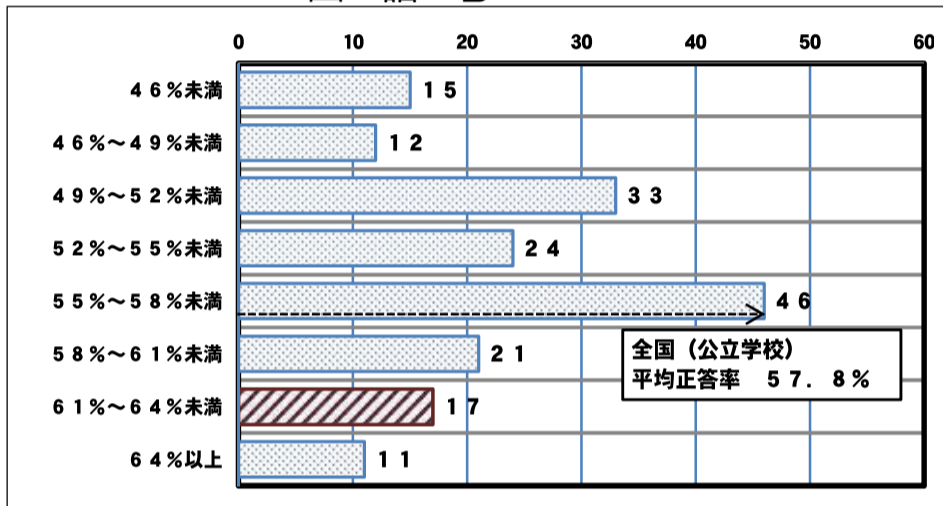
国語 A

市町村数



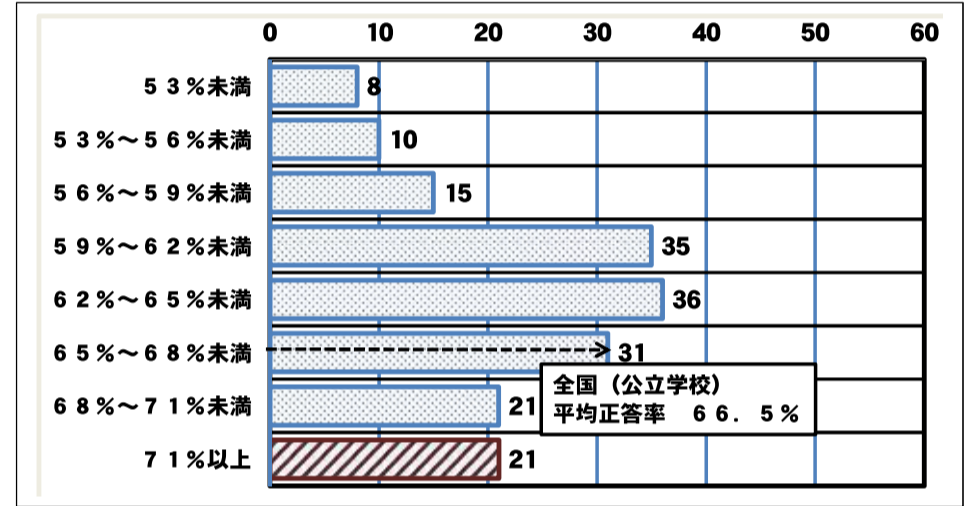
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	82.2	75.1	75.6	109

国語 B



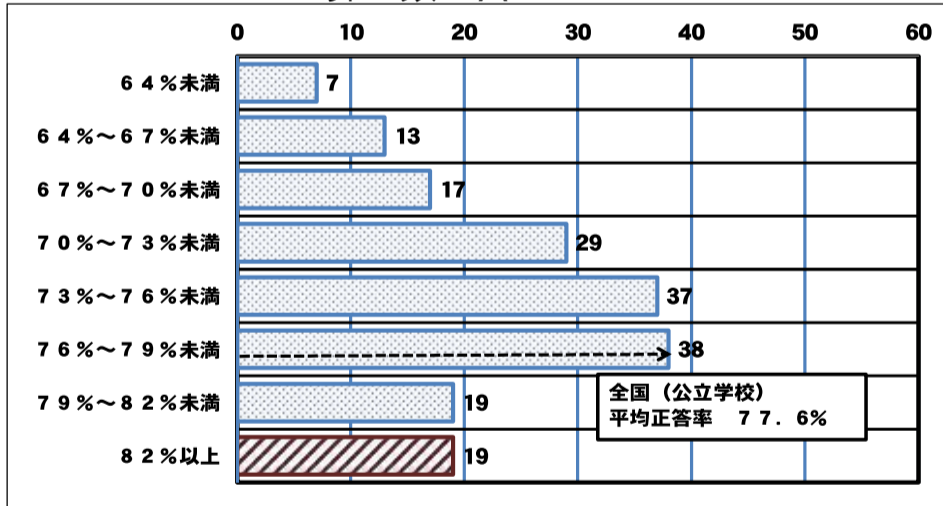
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	61.4	56.0	57.8	106

国語 B



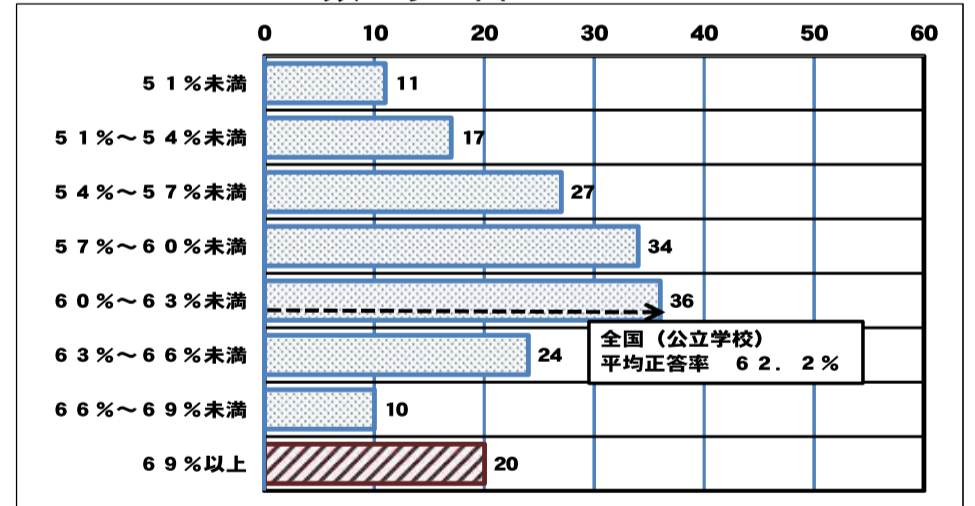
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	79.3	65.0	66.5	119

算数 A



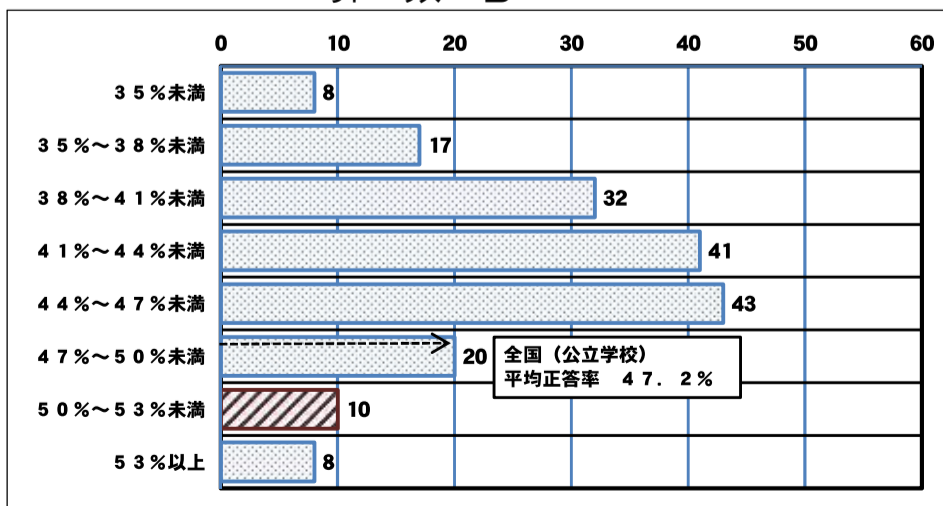
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	85.8	75.3	77.6	111

数学 A



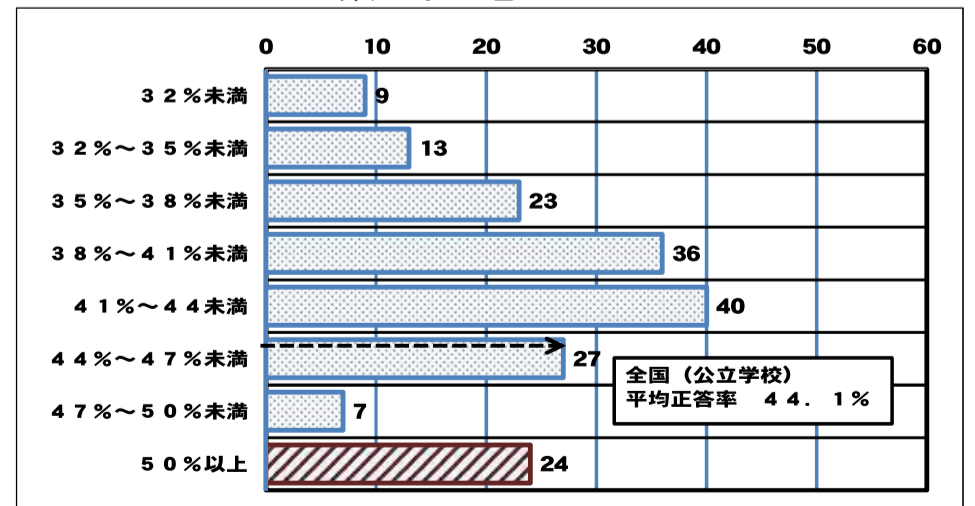
平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	69.3	61.8	62.2	111

算数 B



平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	52.3	44.5	47.2	111

数学 B



平均正答率	町	北海道	全国	全国比
	57.5	43.3	44.1	130

1 1 各校の主な学力向上の取組

【厚真町立厚真中央小学校】

1 特徴的な取組

6年間を見通した「学習指導」「生徒指導」「学級経営」に努め、教職員が同じスタンスに立ち、同一步調で厚真中央小学校としての一貫した指導を展開しています。

教育活動の「質」にこだわり、児童主役の学校を目指し、昨年度から「道徳の時間」を中心に、発問の仕方、話し合い活動の進め方など、教職員の指導力の向上に努めています。

2 授業づくりの視点

児童質問紙の結果から過去3年間の状況を見ると、「国語・算数の授業の内容が分かる」「友達との間で話し合う活動を行っている」と回答している児童が9割程度います。

本校では、基本的な授業の進め方を決め、全ての学年で行っています。担任が変わっても、基本的な指導の仕方が共通していることにより、児童は安心して学習に取り組むことができます。

問題解決的な学習、話し合い、ねらいを明確にした授業は、本校の授業づくりの重要な視点です。

3 家庭との連携の視点

児童質問紙の結果から過去3年間の状況を見ると、「家で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と回答している児童が9割程度います。

本校では、学校と家庭が共通理解を図り、同じスタンスで指導や声掛けができるように「保護者向け中央小ハンドブック」を作成し、全家庭に配付しています。

宿題や自分で決めた課題に取り組む家庭学習は、本校の学力向上の重要な視点です。

【厚真町立上厚真小学校】

1 特徴的な取組

本校では、子どもたちが失敗や間違いを恐れずに、主体的に学ぶことができる力を育むため、「褒める・励ます・考えさせる」などの教育活動を通して、自ら進んで学び、考えを深めることができる指導の充実に取り組んでいます。また、地域の人材を活用した学習ボランティアによる学習指導も行っており、低学年を中心に授業の中での学習支援に取り組んでいます。さらに、「すてきノート」を掲示し、情報の共有化を図っています。

2 授業づくりの視点

児童質問紙の結果から「国語・算数の授業の内容が分かる」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っています。」子どもたちにとって「分かる授業」を視点におき、授業づくりに取り組んでいます。

特に、本校では、校内研修に全学年の授業研究を位置付け、担任の授業力向上に取り組んでいます。その中で、子ども自らが問題を発見し、解決していく能力を身に付けられるよう、問題解決型の授業に力を入れています。また、ペアやグループで学び合う場面や全体で発表する場面を設定し、基礎・基本の定着を図っています。

3 家庭との連携の視点

児童質問紙の中で「家で宿題をしている」「授業の復習をしている」の割合が、全国平均を大きく上回っています。日頃から、学校と家庭が情報を共有し、宿題の質を工夫しながら、意欲的に家庭学習に取り組んでいます。また、学校独自の実施も含め、年5回の生活リズムチェックの実施により、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、上小ホームページの「学校のお知らせ」を活用し、学校と家庭が連携し、学力向上に取り組んでいます。

【厚真町立厚真中学校】

1 特徴的な取組

感動と実感に満ちあふれる学校づくりを目指し、基礎・基本の確実な定着に向けた分かる授業の構築とともに、外部の専門家を積極的に招いたり、学校内外で体験的な学習を充実したりして、本物に触れる感動と実感を味わわせ、主体的に学ぶ態度の育成を図っています。

学級づくりのために年間を通じた合唱の取組や、体育大会や学校祭で協力してやり遂げる体験をもとに、思いやりや協力、努力する心を育て、よりよい人間関係の中で安心して学べる環境づくりや、将来の社会で生きる力の育成に努めています。

2 授業づくりの視点

生徒質問紙の結果から「授業の中でめあてを確認し、最後に学習内容を振り返る活動をよく行った」「先生は分かるまで教えてくれる」と回答している生徒が全国と比較して大幅に高い状況です。

授業では、はじめにねらいを明確にして、個人や集団で課題を解決し、表現したり、学んだことを確認したりするなどの指導や、個別指導を丁寧に行うことが本校の授業づくりの視点です。

3 家庭との連携の視点

生徒質問紙の結果から、「宿題、復習をしている」と回答している生徒が全国と比較して大幅に高い一方、家庭学習の時間が少なく、テレビやDVDを見る時間が長い状況です。

本校では、家庭学習ノートの提出や、放課後学習「蕾」、長期休業中の学習会「厚中寺子屋」の取組とともに、全学年保護者を対象とした「評価・進路説明会」や教育相談、学級通信などにより、家庭との共通理解のもとに学習習慣の確立を図ることが、家庭との連携の視点です。

【厚真町立厚南中学校】

1 特徴的な取組

8：10～20の10分間を活用し朝の読書運動を行い、落ち着いた雰囲気の中、集中して読解力を高めています。また、スクールバスの発車時刻までの放課後の時間（15：30～16：00）を有効に活用し、補充学習等の自主学習やテストに向けた勉強の場を設け、全教職員でサポートしています。

2 授業づくりの視点

生徒質問紙の結果から「自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っている」とすべての生徒が回答しています。

本校では、より個に合ったきめ細かい指導を行うために、校務分掌等を工夫して、数学の授業を複数の教員で行っています。また、道立高校の入試にも活用されている「ほっかいどうチャレンジテスト」を年間指導計画に位置付け、計画的に活用しています。

3 家庭との連携の視点

生徒質問紙の結果から「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答している生徒が全国平均の48.4%に対し、本校は39.1%高い87.5%という結果になっています。

本校では、スモールメリットを活かし、通知表に観点別評価とその評定以外に、各教科所見を設け、一人一人の学習の様子を家庭にお知らせするとともに、国社数理英の学習方法を説明する「学びの集い」を行い、一人一人の学びをサポートするために家庭との連携した取組を行っています。